



びわ湖トラスたとより

平成26年秋号

平成26年9月吉日発行 通巻10号 認定NPO法人びわ湖トラス

さんぷうころう

山風湖浪

この『山紫水明・風光明媚』なびわ湖を次世代まで維持伝達するため、全ての人や法人が己の利害を捨て国立公園昇格運動を始め、何が出来るかを真剣に考え、実践する時はなかるつか。今こそ箱庭的思考を捨てて…。

外国のある学者が「日本人は縮み思想だ」と言つて、話題を呼んだことがあった。縮み思想とは換言すれば箱庭的思考にほかならない。その昔、比叡山上からびわ湖を初めて眺めた修学旅行生が「アッ、日本海」と叫ぶ声をよく耳にした。琵琶湖の雄大さが、湖は狭小で、周囲が全て見渡せるものとする固定概念を破らせた瞬間でもあったのだ。

比叡山上から眺める琵琶湖は雄大な美しさを実感させてくれる。しかし、日本人は雄大な眺めより箱庭的な光景に魅了される傾向が強いのでは…と、国立公園を巡っているときなど、ふと思う。

びわ湖を静かに眺めていると、『山紫水明』の言葉が、琵琶湖の為に造られたのではないかと思うことが度々ある。湖と山々が織りなす美しい光景は飽くことが無い。同時に、なぜ琵琶湖は国立公園ではなく国立公園にならないのだろうと疑問がわいてくる。

理事長 山田 能裕

美しい琵琶湖を次世代へ

自然、森林とのつきあい

我が国の森林面積は国土の7割に達する。フィンランド、スウェーデンに並んで世界のトップである。それは雨量、気温にめぐまれているだけでなく急斜面の山が多いことによる。平地なら農地が居住地になってしまう。急斜面を土壌侵食や土石流といった土砂災害から守るためには、土壌にしっかりと根を張った樹木に覆われる必要がある。

滋賀、京都の山の急斜面は、トチノキ、カツラ、ケヤキ、ブナなど落葉広葉樹の古木、巨木にまもられて現在の森や山がある。トチノキやクルミなどは、蜂蜜や餅の原料として、あるいは救荒食として利用するためにわざと保存されてきた。つまり、人間と自然の合作による文化財である。

ただ、これを保全しなければならないという「ボランティア精神」に、私はもうひとつ感心しない。多くの人たちがエンジョイできる環境にすることを希望する。道標を立て、登山道、遊歩道、散策路を整備し、避難小屋を作るのである。縄文杉にみられるように、観光は重要な産業となりうる。そのような環境が科学的にいかに貴重なものかの意味づけは、専門家の先生方をお願いしよう。(岩坪 五郎)



朽木の森のトチノキ

『宗教法人 真如苑』さまからご支援

宗教法人真如苑さまより、今年度30万円の寄付金を頂くことになり、協議の上、びわ湖文庫出版事業に活用することに致しました。

びわ湖文庫は、びわ湖などの湖沼およびその集水域に関する貴重な資料を出版化し、情報発信や文化交流、さらに地域再発見の切っ掛けになるものと考えています。まずは『ブライアンズの眼・湖国プロフィール』（ブライアン・ウィリアムズ著）と『検証・琵琶湖』（熊谷道夫・濱端悦治・奥田昇 著）を予定しております。(熊谷 道夫)

会員の募い お知らせ

日時	2014年11月15日(土) 14:00~18:00
場所	大津市浜大津 大津港内 1部:琵琶湖汽船 研修室 2部:喫茶キャピターノ
参加費	2,000円 (1・2部合わせて) どちらか一方の参加でも2,000円
内容	第1部 講演 《山の話》 元日本山岳会 会長 斎藤惇生氏 《湖の話》 琵琶湖博物館 館長 篠原徹氏 第2部 交流会 「近江の味覚を楽しむ」

追 悼

びわ湖トラストは大切な先生方を亡くしました。びわ湖の自然を守ろうと尽力されたお二人のご遺志を、残った者でしっかり継いでまいります。

「ものづくりの楽しさを伝えたい」と語り続けた板倉安正先生

板倉安正理事（滋賀大学名誉教授）

2013年11月22日ご逝去。（享年73歳）



琵琶湖研究所で『遊湖の会』という異業種の集まりをされていて、皆でソーラーボート大会を開催しようということになりました。その事務局のお手伝いに駆り出された

のが、板倉先生とのお出あいの始めでした。その時立ち上げたびわ湖クルーズ・ソーラーボート大会は今年で18回目。第1回の前に予備大会をしましたので、通算19回になります。

『ソーラーボート大会の支援依頼に行くと、どこに行っても「いいことしてますね」と言われるのでうれしい』と板倉先生はいつも言われていました。



ソーラーボート大会にて

太陽の下でボートが元気よく進むと歓声をあげる子どもたち。板倉先生が目指した『ものづくりの楽しさを子どもたちに伝えたい』という思いが実感となって甦ってきます。

ものづくりの火が消えないように継承してまいります。（山脇 秀練）

今年は台風や悪天候で延期が続きましたが、子どもたちが中心の普及部門も何とか開催できました。一生懸命作ったソーラーボートを水に浮かべ、

太陽の下でボートが元気よく進むと歓声をあげる子どもたち。板倉先生が目指した『ものづくりの楽しさを子どもたちに伝えたい』という思いが



植物たちを愛した濱端悦治先生

濱端悦治理事（滋賀県立大学准教授）は 2014年7月24日永眠されました（享年64歳）。濱端さんの力が一層必要とされる時に残念でなりません。

植物生態学が専門の濱端さんは滋賀県琵琶湖研究所開設に恩師の吉良竜夫先生（初代所長）と共に準備段階（1981年）から関わり、その後の発展に貢献されました。2006年に滋賀県立大学へ移り、研究・教育で忙しい中、びわ湖トラスト理事や委員会委員に就任するなど社会貢献にも精力的に取り組んでおられました。

この5月、濱端さん企画でびわ湖トラスト「朽木トチノキ開花観察会」と「淀川源流の春を楽しむ」会が開かれ、すばらしい観察会ができました（詳



しくはびわ湖トラストHP）。「淀川源流」では自らが案内人となり、余呉地域特有の植物を見つけるとは丁寧な説明されました。元気に林の中を歩き回られていたその三か月後に逝去されるとは。その時すでに体調は思わしくなかったようですが、この地域の自然の美しさ大切さを多くの人に伝えたいとの一念だったのでしょう。思いは十分伝わりました、濱端さんありがとう。

「今頃はモンゴルの草原のようなところで、花を摘まれていると想像している」。モンゴルを愛した恩師吉良先生追悼の濱端さんの一文です。濱端さん自身、2008年から2013年までほぼ毎年モンゴルへ植物の調査に行かれていました。今ごろはモンゴルの草原で恩師と楽しい植物談義をしていると想像しています。

（中島 拓男）



平成26年度上期活動報告(環境学習)

4月21日(金)

megumi

～車いすの方たちにびわ湖を感じてもらいました～

場 所 : びわ湖 大津港～長浜港～大津港
講 師 : 立命館大学の先生達
参加者 : 27組 55名



びわ湖の話に興味津々・・・



西国第30番札所宝厳寺のある竹生島

体の不自由な方たちにも湖上でびわ湖を実感し、その環境を考えて頂きたいとの願いを込めて、車いす利用者とその関係者たちに環境船megumi号でびわ湖巡りをして頂きました。びわ湖のことやmegumi号のこと、びわ湖の環境についても学びました。沖の白石や竹生島を間近に見ていただけたことも船ならではの、感動でした。

体の不自由な方たちの乗船ということで、琵琶湖汽船ではベッドの準備もして下さいました。また、平和堂財団や立命館大学等、スタッフの皆さまにもお世話になり、朝、出発した船は16時、無事大津港に帰港しました。船に乗ってびわ湖を学習する機会が得られたことに参加者からは深い感謝と「来年も...」の声があり、琵琶湖を身近に感じていただけたことを実感いたしました。(辻ひとみ)



びわ湖巡り。大満足でした

5月8日(土)

淀川源流域の春を楽しむ ～ブナの若葉、満開のユキツバキを訪ねて～

場 所 : 滋賀と福井の県境である栃の木峠、余呉町中河内、菅並
案 内 : 滋賀県立大学 濱端 悦治先生 滋賀県自然環境保全課 今城 克啓さん
参加者 : 41組 20名

ユキツバキのみならず、湖北のおそい春を待ちこがれたように咲く野の草花が迎えてくれた“小さな旅”を満喫しました。



「さあ、出発！」バスの中で近江の植物の解説をする濱端先生

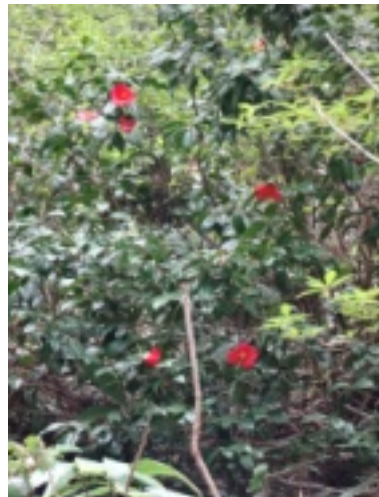


栃の木峠にはトチノキの巨木がある



広峯神社境内で県自然環境保全課の今城克啓さんの「人と自然が共存して暮らしていた山村文化」の話を聞く

これがユキツバキ。冬の豪雪の中で枝を広げて雪の重みに耐え、春になるとむっくり起き上がり、花を咲かせる



広峯神社境内にニリンソウの大群落があった。白い花が可愛い



淀川源流の一つ高時川上流。この美しい川がびわ湖に流入し、びわ湖から淀川に流れ、瀬戸内海に流れ行くのである

朽木トチノキ開花観察会

場 所 : 朽木(山帰来・生杉)
 案 内 : 元朽木いきものふれあいの里館長 青木 繁さん
 参加者 : 21組 20名
 トチノキの開花時期の実施は初めてでした。



高島市朽木中牧の「山帰来」に集合し、まず山の説明を聞く



トチノキの花。白い花が山の春を告げる



「みんなあつまれえ」二人も木の上に乗れるぐらい大きな木だよ

トチノキの巨木がある場所は、座っていてもずり落ちそうなほどの急斜面



坊やが何人、手をつなげば一周できるかな?



昼食後、近くの小川で遊ぶ。涼しい!

megumiに乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう

場 所 : びわ湖 大津港～北湖～沖白石～沖島～南湖(柳が崎棧橋)～大津港
 講 師 : 立命館大学 中島淳先生 他
 参加者 : 24組 58名
 琵琶湖にはたくさんの謎があることを知ったり、北湖と南湖の水の透明度の違いも知りました。びわ湖の中に人が住む島・沖島の散策は印象に残りました。



水質計でびわ湖の水質をモニタリング



「これから、びわ湖の中を覗いてみます」まずはオリエンテーション



びわ湖の透明度を測ってみよう! 白い円盤を湖中におろして、何センチまで見えていたかで、透明度を測る



びわ湖のプランクトンを採取。指導は中島淳先生



「顕微鏡のピントあってきた?」「見えてきたよ...」



子どもたちの飲み込み、早し! 顕微鏡操作もすぐに一人できるようにになった



水中観察の合間を縫って、びわ湖で人が暮らしている唯一の島沖島に上陸。島内をしばし散策

8月5日(水) カヌーに乗ってびわ湖に触れよう

場 所 : 大津市雄琴 OPAL
 指 導 : 京都大学 中野伸一先生 他
 参加者 : 29組 71名
 カヌー体験・プランクトン観察・外来魚調査・水草パウチなど沢山のメニューを楽しくこなしました。スタッフのみなさん、ありがとうございました。



まずはびわ湖の中にはいって、びわ湖の水草を採取。足に当たる湖底の感触が忘れられない!



子どもと一緒に参加の大人も興味津々。「ちょっとパパにも見せてくれよ」



びわ湖の固有種と外来魚についての講義



一つ一つの学習事項についてスタッフたちが丁寧に説明



採取した水草、随分いろんな種類があるなあ



びわ湖にこぎ出す。湖が広~い! 空が広~い! 湖面と目線が近いので水の中の生き物になった気分だ



いよいよカヌーの体験。操作の方法を陸上でしっかり学ぶ

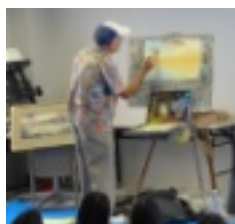
ブライアン・ウィリアムズに学ぶ 水辺の写生会

場 所 : 大津市雄琴 OPAL
 案 内 : ブライアン・ウィリアムズ画伯
 参加者 : 26組 66名
 便利さを選んでしまったための環境問題を知りました。プロの描く様子を生で見た後は実践。大人も子供も刺激を受け、作品が2枚の子供もいました。

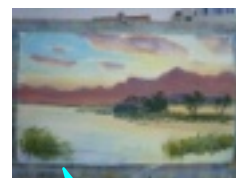
8月31日(日)



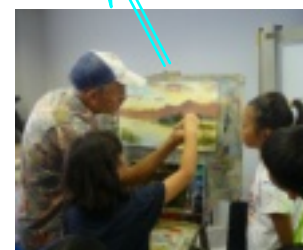
まずは空から描く



描く対象の構図を決める



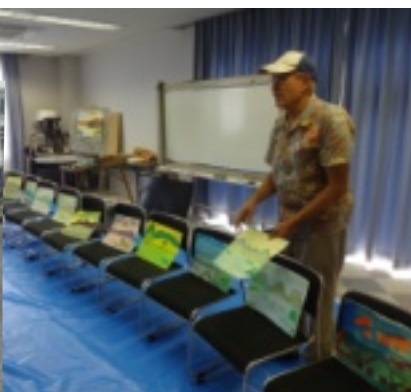
こんな絵になりました



「ここはこんな感じでね」
遠くは薄い色、近くは濃い色が基本



びわ湖をよ~くみて、そして描く



描きあがった絵を並べてブライアン画伯の講評の時間



画伯と一緒に、「こんなん描けたよ」

湖水浄化活動

昨年8月末の台風被害後、12月まで、柳が崎棧橋脇の湖中に設置した2.2m角の仕切枠内でナノバブラーを130日運転。ヘド口の消滅度合いを実測した結果、枠内中央付近で少なくとも8cmのヘド口面減少を確認。また、新瀬田浄水場横のクリークではナノバブル発生源から50m下流でも嫌気性バクテリアが減少していました。この結果、ナノバブルは長く滞留すると判明しました。今年度も「しが新事業応援ファンド」や「西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部」の助成を受け、関係団体とともに近江八幡市の八幡堀の浄化（装置写真参照）と柳が崎でシジミの育成促進に取り組み中です。詳細はHP参照願います。（高木 順）



八幡堀用NB装置浮体部

総会

平成26年5月24日定期総会をしました。総会後には「故・板倉安正先生追悼講演会」を行いました。

ソーラーボート大会

「ソーラーボート」とは「太陽（電池）を動力にして自律航行する船のこと。その大会を「先端技術部門」（8月23・24日）、「普及部門」（9月6日）に分けて開催しました。工夫を凝らしたボートを自分たちで作り、水上を走らせ、その力を競いました。

びわ湖基金について～琵琶湖をよろしく～

昨秋、びわ湖トラストは寄付金に対する税金の優遇措置を受けられる認定を得ることができ、「認定特定非営利活動法人びわ湖トラスト」となりました。

人間活動による自然破壊や地球温暖化からびわ湖を守り、豊かな自然を後世に残していくことは、今を生きる私たちの責務と考えております。そのために実験調査船「はっけん号」と自律型潜水ロボット「淡探（たんたん）」を滋賀県からひきとり、びわ湖の共同調査や環境学習等々を続けていきたいと考え、「びわ湖基金」の設立を目指すことにいたしました。一口1000円で、多くの方々の参加を募ろうと思っております。認定を得たことで3000円以上のご寄付には税金の一部還付があります。つきましては皆さまのお力添えを是非ともお願い申し上げます。

基金の口座は下記です。（熊谷道夫）

ゆうちょ銀行 店番099 当座預金
 口座 番号 00940-0-273474
 名称 NPO法人びわ湖トラスト

<<平成26年度の活動>>（青印は終了したもの）

- 4月21日 megumiに乗ってびわ湖の中を
のぞいてみよう！！
- 5月 3日 淀川源流域の春を楽しむ（長浜市余呉）
- 24日 第7回通常総会・定期講演会（大津）
- 5月31日 トチノキ開花見学会（朽木）
- 7月29日 megumiに乗って
びわ湖の中をのぞいてみよう！！
- 8月 5日 カヌーに乗ってびわ湖にふれよう
（雄琴OPAL）
- 23・24日 ソーラーボート大会
（先端技術部門・マキノ）
- 31日 風景画家ブライアン・ウィリアムズ
に学ぶ写生（雄琴）
- 9月 6日 ソーラーボート大会（普及部門・雄琴）
- 9月 9日 ブライアン・ウィリアムズ
- 満月写生と宴 -（大津）
- 10月18日 秋のトチノキ観察会（朽木）
- 11月15日 第4回 会員の集い（大津）

編集後記

異常気象が日本全国で猛威を振るった夏。滋賀県も局所的な豪雨に見舞われました。地球の悲鳴を真摯に聞かねば、と思います。「びわ湖トラスト」は、澤薫、内藤悟、中島拓男、橋本雅彦、福家俊彦、山本輝彦の新理事6人を迎えました。びわ湖や湖を取り巻く環境のために一層の力を尽くします。よろしくお願い致します。（西本柳枝）



編集・発行：

〒520-0047

滋賀県大津市浜大津5-1-1

TEL：077-522-7255 / FAX：077-572-7265

URL：http://www.biwako-trust.com/

E-mail：biwako-trust@road.ocn.ne.jp